情報学専攻入学者選抜試験

情報社会デザイン

問題冊子

注意事項

以下の指示にしたがって解答してください

	分　　野
右の１分野を解答する	社会システム基礎
右の２分野から１分野を解答する	コミュニティ
	メディア

１．問題冊子は、本表紙を含めて全部で４ページあります。レポート作成開始時に問題冊子のページ数を確認して、落丁がある場合は直ちに試験本部へご連絡ください。

２．解答は解答用紙に記入してください。問題冊子に記入しても採点されません。

３．解答用紙はA4片面印刷で印刷して全て提出してください。解答した分野のみが採点されます。

社会システム基礎

（問１）　SNS の発達により、誰もが意見や情報を容易に発信できるようになった反面、多くの不適切な情報が迅速かつ広範に伝播することが、個人や企業、社会に多大なダメージを与える例も生じている。現在、プロバイダ責任制限法をはじめ政府による違法有害情報への対処がなされる一方、利用者のリテラシー向上や SNS 事業者の自主的な取組みを求める声も大きい。近時の法改正や具体の事例を取り上げながら、インターネット上の誹謗中傷についての規制方法、効果とその課題を論じなさい。（1000 字程度）

（問２）　近年、パーソナルデータの利活用が求められるようになり、利活用のための制度、枠組みが検討されている。そのような枠組みのひとつとして、パーソナルデータの利活用を通じて得られる個人の便益に着目した情報銀行が挙げられる。この情報銀行の展開の可能性や課題について、パーソナルデータを経済財として捉えることの是非という観点を踏まえながら、1000 字程度で論じなさい。（1000 字程度）

（問３）　あなたが現在行っている研究、大学院に進学してから行う予定の研究、および、将来就きたいと考えている職業についてのあなたの考えを英語で書きなさい。（300 語程度）

コミュニティ

（問１）　今年２月、日本政府は内閣官房に孤独・孤立対策担当室を設置し、孤独・孤立対策担当大臣を任命した。同担当室は２月末に「孤独・孤立を防ぎ、不安に寄り添い、つながるための緊急フォーラム」を開催し、３月以降はおよそ月１回のペースで「孤独・孤立対策に関する連絡調整会議」を開催している。

日本政府がこのような施策を実施する直接の契機は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う社会やコミュニティの変化であると考えられる。その一方で、孤独や孤立に関わる社会課題は、新型コロナウイルスの感染が拡大する以前から様々な領域で生起していたことも事実である。

以上を踏まえて次の（１）（２）の問いに答えなさい。

（１）　孤独や孤立に関わる具体的な社会課題を１つ挙げ、その構造的・歴史的背景をコミュニティと情報社会に関連する概念を用いて説明しなさい。（1000 字程度）

（２）　（１）で挙げた社会課題を解決するための取り組みとして現在どのようなことが行われているかを説明したうえで、その取り組みをより発展させるために何が必要かを論じなさい。（1000 字程度）

メディア

（問１）　2018 年 7 月に公刊された『平成 30 年版　情報通信白書』（総務省）には以下のように述べられている。

＊削除 :『平成 30 年版　情報通信白書』「第 2 部　基本データと政策動向　第 4 節　放送政策の展開　5　放送政策に関する諸課題」冒頭の約 200 字の記述を参照
（https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd264500.html）

2018 年（平成 30 年）時に期待・認識されていた事態は現在ではどのように展開しているか。このときに予期されなかった課題も含めて説明しなさい。（1000 字程度）

（問２）　昨年公刊された『令和２年版　情報通信白書』（総務省）には以下のように述べられている。

＊削除 :『令和２年版　情報通信白書』「第 2 部　基本データと政策動向、第 4 節　放送政策の展開、(2) 放送コンテンツの海外展開」冒頭の約 250 字の記述を参照
（https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r02/html/nd264420.html）

ここで指摘されている動向は、今後、どのように進展し、効果を生んでいくと思われるか。具体的なデータ・事例をふまえて書きなさい。（1000 字程度）